

宮代町郷土資料館だより

# えんがわ

第9号

## 企画展

### 『昔のくらしの道具』 ご案内

春から初夏にかけて、田んぼでは田植えが行われ、町の風景も変わります。

機械を使って行われる現在の農作業も、ほんの数十年前までは牛馬や人の手によって行われていました。いつの時代も少しでも能率を上げようと、人はさまざまな工夫をこらし、道具を使っていたのです。

宮代町郷土資料館では、そのような民具を約1,200点収蔵しています。これらは町民の方々が使用し、寄贈していただいた貴重なものです。

今回の企画展では、これら昔の暮らしを物語る民具を展示します。

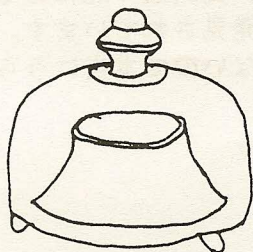
なつかしくご覧になる方もあるでしょう。また「資料館にこういうものがあったよ。どうやって使うの?」とおじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみると、いろいろと教えてくれるでしょう。ぜひご覧になって、「昔」を感じてください。

企画展『昔のくらしの道具』

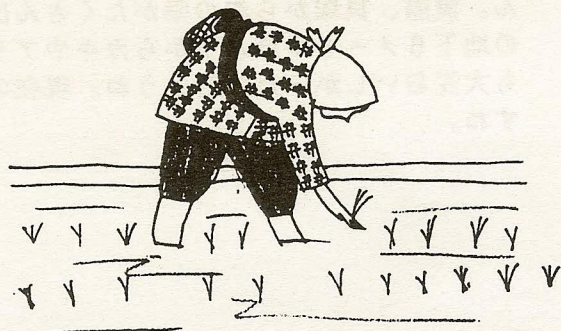
期間 4月24日(木)~6月8日(日)

開館時間 9時30分~4時30分

入場無料



ハエトリ





# 縄文の食文化

常設展示室に入ると正面に海の風景をバックに、縄文土器が展示されています。その手前には丸い小型のドームがあります。

この中には、縄文時代の遺跡から発掘された縄文人の食べ残した物を分析した結果から推定した、縄文時代の食べ物(複製)が展示されています。肉団子、縄文クッキー、貝のスープなどです。

縄文時代、特に縄文前期(今から約6,000年前)の宮代町付近は暖かい気候で台地上には栗やクルミ、カシノキ、トチノキなどの落葉広葉樹や照葉樹が生い茂る森がありました。

人々はそういった木の実を採り暮らして

いました。最近の研究では、栗などは当時栽培されていたともいわれています。また、トチノミは今でもアク抜きをして食べているところもあります。こうした実をアク抜きしてから押しつぶして練り、パン状にして焼き上げたのが縄文クッキーです。実際に遺跡から発掘されることもあります。展示してあるのはカシノキの実から作ったものです。実際に作って食べてみると渋みがやや強く感じられました。

一方、こうした森にはイノシシやシカ、ウサギなどの動物が棲んでいました。縄文の人々はこれらを狩り、食べ物としていました。肉団子もこうした肉を用いてつくられ食べられた物と思われます。

また当時あたりは海。海の幸である貝や魚を採って食べていたのは間違いありません。実際、貝塚から海の幸がたくさん出土しています。資料館の北にある下水処理場の地下6メートルほど下からカキやアサリ等の貝類が発見されています。貝のスープも大変おいしかったでしょうね。現在の宮代には海がないので本当にうらやましいですね。



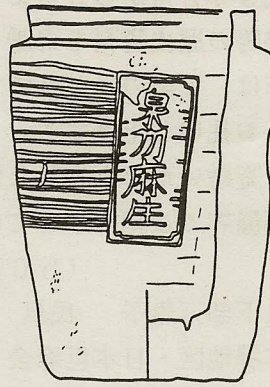
資料館常設展示室内で、土器作りを始める前に、講師から縄文土器についての説明を聞く小学生(平成8年度夏休み体験学習「土器作り教室」から)  
※写真の左下の小型ドームの中に見えるのが縄文時代の食べ物(複製)皿に食べ物盛ってある。(矢印 介)



# ～収蔵資料の紹介～

## 「焼塩壺」

人間の生命維持にとって必要不可欠なものの一つが塩です。日本では岩塩は無く、すべて海水から得ています。その歴史は古く、少なくとも縄文時代後期には製塩が行われていたようです。江戸時代になると穀類や野菜の品種が増え、漁業の発達でとれる魚の種類も増え、それに応じて調味料の種類も多くなりました。塩も、焼塩・真塩・差塩を人それぞれの味の好みで使い分けました。これらの塩のうち焼塩を入れた壺が資料館に保管されています。焼塩壺というのは、粗塩を白で細かく粉碎し、これを別に焼かせたコップ形の素焼きの小型土器に入れて、天井のない窯のなかに積み重ねて焼き、ニガリがとれた真っ白な塩を作りましたが、この時に用いられた素焼きの小型土器のことです。不純物を含んでいないということから、この焼塩壺入りのまま売ったそうです。



宮代町郷土資料館収蔵の焼塩壺(実測図)

当館の収蔵資料であるこの焼塩壺は、高さ約10センチ、口径約6センチの赤褐色をしたものです。刻印が押されており、「泉州麻生」とあります。これは生産地を表しており、「泉州」は現在の大阪府の南部の地域を指します。また「麻生」とあるところから現在の貝塚市であることが分かります。一方、この「泉州麻生」の刻印は塩屋治兵衛によって延宝～享保(1673～1735)年間の62年の間に作られた物です。板作りのものと、焼塩壺の上半部のみをロクロで整形したものの2つのタイプがありますが、これは後者の典型的なものです。したがって時期的にも新しくなります。

こうした焼塩壺の多くは江戸時代に作られましたが、この分布を見ると関東では大部分は江戸城を中心としたいわゆる御府内で見られます。このことから、焼塩壺の使用者は城や武家屋敷、有力社寺、有力商家などに住んでいた人々に限られるようです。県内でも、わずかに武家屋敷等から出土しているのが知られている程度です。

郷土資料館にある焼塩壺がどういう所で、どういう人が使ったのか明らかではありませんが、時期も限定される数少ない貴重な物であることには間違いありません。

## わたしのひとこと

### 郷土史講座『宮代の歴史にみる最先端文化』からひとこと

平成9年2月16日から3月16日まで郷土史講座『宮代の歴史にみる最先端文化』が行われました。

参加者のみなさんから郷土史講座について、たくさんのご意見をいただきましたので、その一部をご紹介します。

〈郷土史講座『宮代の歴史にみる最先端文化』に参加された皆さんのひとこと〉

- ・宮代の古代から近代までいろいろと勉強になりました。
- ・新住民の私にはとてもためになりました。

- ・宮代の古代文化についていろいろ調べてみたくなった。
- ・宮代がこんなに歴史のある町であることに驚きました。
- ・「宮代と鉄道」の講義にでてきた馬車鉄道というのが面白かった。
- ・宮代の中世についての講義をたいへん興味深く聞かせてもらいました。
- ・宮代の歴史について、分からなかったことが多かったのでたいへん参考になりました。
- ・明治維新前後の宮代についての話や和戸教会開設の話などを興味深く聞かせてもらいました。



## 資料寄贈者名簿

平成9年2月から3月までに民具や古文書等の歴史資料を寄贈していただいた方は、下記のとおりです。

厚くお礼申し上げます。

ご寄贈いただきました資料は今後、企画展等でご紹介させていただきます。

(50音順・敬称略)

日下部万亀子 民具  
本郷地区・日本巨峰会  
和戸支部のみなさん

民具

富田利幸 民具・文書  
鷲谷国雄 民具

今後も、昔を語る様々な資料を収集してまいります。ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

## コラム-クルミの木-

- ◆今年2月、資料館職員が小学校に向いて「石臼を使った団子作り」の体験学習講座を行いました。このような、いわば「出張サービス」は初めての試み。学校行事のお手伝いという形でしたが、子供たちにも好評で、これからも行っていきたいと思えます。この他にも昔の暮らしを感じる方法はいろいろあります。例えば資料館の民家の土間に入って、ひんやりとした空気や、いぶした匂いを感じることもそのひとつでしょう。
- ◆ストレス過剰のこの時代、春真っ盛りの資料館で、のんびりとタイムトリップを楽しんでください。

## 資料館日誌抄

平成8年

12月11日 企画「みやしろのお正月  
～祝いと願い」

(1月26日まで)

平成9年

1月12日 体験講座「ハナとまゆ玉団子作り」

1月16日 宮代町立百間小学校見学(110名)

1月17日 内牧民俗を調べる会見学(8名)

1月23日 宮代町立百間小学校見学(110名)

1月29日 企画「ひなまつり」(3月23日まで)

1月30日 宮代町立笠原小学校見学(46名)

2月12日 道仏北遺跡試掘調査(2月21日まで)

2月16日 郷土講座『宮代の歴史にみる

(5回講座)

最先端文化』

(3月16日まで)

「古代の鉄器文化」

「宮代と鉄道」

「西光院と阿弥陀三尊像」

「近代の幕開け」

「町内見学会」

2月18日 宮代町立須賀小学校見学(118名)  
金原遺跡発掘調査

3月14日 内牧民俗を調べる会見学(8名)

3月22日 新山遺跡試掘調査(3月24日まで)

宮代町郷土資料館だより 第9号

発行年月日 平成9年4月1日

編集発行 宮代町郷土資料館

〒345

埼玉県南埼玉郡宮代町

字西原289番地

☎0480-34-8882